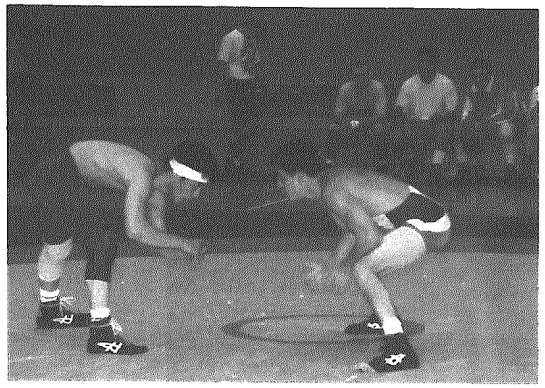
第34回日米親善高等学校レスリング大会
新潟・横越大会
～友好交流を深めた三日間～

七月二日「第三十四回日米親善高等学校レスリング大会新潟・横越大会」が総合体育館で開催されました。

この大会は、新潟県高等学校体育連盟と日本アマチュアレスリング協会が毎年県内で開催しているもので、本村での開催は昨年十二月頃決定されました。



緊迫した一瞬

アメリカ合衆国オクラホマ州選抜の高校生レスリングチーム団長、コーチを含む二行十四名は六月二十日に来日し、愛知、富山、石川、青森、岩手の各県を転戦、最後の大会会場となった横越村には前日夕方来村。小学生やホームステイ先の家族とゲームや七夕飾りで交流を深めました。

大会当日の午前中は、北方文化博物館を見学し、日本の文化に親しみました。

午後からの大会では、県内高校の有力選手たちで構成された新潟県選抜チームとフリースタイルの団体戦が行われました。結果は、全米第二位の実力を見せたオクラホマ州選抜チームが七対五で県選抜チームを破り、日本での最終戦を飾りました。

白熱した国際試合に六百人を超える観客からは盛大な拍手が贈られていました。

夜には日米選手団や高体連役員、村関係者やホストファミリー等を招いて同体育館でレセプションが開催されました。

村職員、田中幸仁の通訳で、浅見村長、次いで金川議長の歓迎挨拶後、米国選手団長グレッグ・ヘニングさんが「コンバンワ」「アリガトウ」などの日本語を交え、ユーモラスに挨拶されました。レセプションでは最初会話に戸惑っていた皆さんも、村国際交流協会事務局の森裕子さんの司会進行で始まったゲームなどで打ち解け、賑やかに歓談な友好交流を深めていました。

翌三日に役場へ来庁し、村長に表敬訪問をした後、二泊三日の滞在期間を終え、一路アメリカへの帰路につきました。

国際交流に一役
ボランティアが心で接待

日本各地の高校生等と親善をしながら交流を深めるという活動目的は、二泊三日の滞在期間中において試合外でも、多くのボランティアの方々の協力に支えられ成功することができました。

来村した一日の午後は中央公民館主催の交流会が行われ、横越小学校児童、父母、国際交流協会等約七十人が日米両国旗を手に選手を出迎え、七夕の歌、折り紙、レスリングごっこを一緒にやり楽しい一時を過ごしました。

二日の正午は阿野の里・よこごし、沢海土曜クラブ、国際交流協会等のメンバーが横越産の食材を使って、カレーライス、おにぎりを作り、両国選手や手伝いに来た高校生に振舞いました。

宿泊では、場所によっては受け入れ先が見つからずにホテルに滞在する場合がある中、よこごし国際交流協会が中心となり村内の各家庭に呼びかけ、十四軒のホストファミリーが選手を受け入れました。これに対しては高体連の中林副会長より「横越の文化水準の高さ、住民の暖かい気持ちに驚き感謝します」とお礼の言葉があった程です。

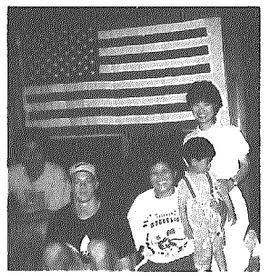
帰国する三日目も多くの関係者が見守る中、別れを惜しんで涙ぐむ姿も見られました。

ホストファミリーの感想

ショーン、また来てね
小杉　宮沢　弘昭（37）

「ウェルカム、いらっしゃい」やって来たアメリカ選手は、ショーン、真面目なスポーツ青年という印象でした。片言の英語に身振り手振りを混じえての会話が通じると嬉しく温かい気持ちになりました。

ホームステイといってもわずかな期間、ハードスケジュールの中で試合に備え夜はゆっくり休んでもらおうというのが、ショーンへの最大の心遣いでした。



もっとゆっくり、いろいろな話をする時間が欲しかったように思います。

それにしても、コシヒカリのご飯に砂糖をまぶして食べ「ナイス」と笑ったショーンには家族一同まいりました。

バッバがうちにきたこと
横越　横田　夏美（7）

出むかえに行ったらほとんどの人のかみが金色で私はびっくりしました。私のうちに来る人はバッバ・マックローでした。そしてうちにかえってごはんを食べたら、かんばらまつりにデビット・ホッパと行きました。金魚すくいをしました。し合の日は、し合いが始まる前どきどきしました。でもバッバはとてもつよく25びょうでかちました。「すごいな」と思いました。家ではザリガニをつかんであそんだりフォークダンスのうたをうたってくれました。よる花火をしたりお母さんとお茶をたてたりしました。バッバがうちに来てくれてうれしかったです。

ゲストを送って
小杉　佐藤　和雄（43）

何をどうするか訳の分からないまま三日間が過ぎ、何とか無事に責任が果たせたと胸をなでおろしています。

ホストファミリーに指名された時、何が不安だったと言えば第一に言葉の事が頭に浮かびました。英会話など全く用が無かった日常で七月一日が迫るにつれ焦ってきましたが、ぶっつけ本番、単語と身振り手振りで何とか切り抜けました。

しかし、ゲストを送った後で考えて見ると、会話をする時は相手に日本語を教えてやる様な気持ちで接していたらもっと気楽になり、心に余裕も生まれ、相手もリラックス出来たのではないかと思いました。

ホームスティ
横越　坂井　礼子（39）

我家には、十七歳のとてもさわやかなクロードがゲストとして来ました。お互いにとても緊張してしまいました。

翌日、試合はフォール勝ちをし、私はとってもうれしくて、大騒ぎ、クロードもリラックスし、レセプション後、三家族でホームパーティーをし、花火に歌を歌ったり、私の事を「ジャパニーズママ」と呼び、大いに盛り上がり夜遅くまで交流しました。

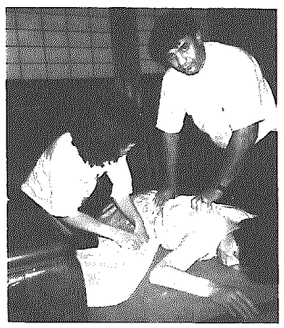
帰る日の朝、小学一年の長男は寝ているクロードに涙涙…の「グッバイ・カマアゲイン」一緒にゲームをし、風呂に入り、ステキな思い出を作りました。

家族みんなとっても貴重な体験でした。

ありがとう、ヘニング団長
小杉　山崎志摩子（33）

ヘニング団長のホストとしての三日間は、大変素晴しかった。

互いのルーツから円高や貿易摩擦の事にまで話が弾み、笑いころげたりシビアになったりで連夜寝たのは十二時過ぎ。そして、スポーツ医学に沿ったマッサージを家族にサービスしてもらうこと二時間以上！汗だくになって！疲れないかと心配すると、「喜んでもらえば自分もハッピーになれる。これが私のホストへの感謝の気持ちだ」との事。家族一同大感激した。



彼の広く深い、そして誇り高き熱い人柄に触れ、私達もHOTな時を過ごさせてもらった。サンキュー　Mr.ヘニング。

ステキな体験
小杉　吉川　縁子（36）

お互い母国語同士。最初は、「どう成るか」、「食べ物は」、「飲み物は」、等冷や汗物でした。そんな中で子供達の順応性の早さには、大いに助けられました。慣れるにつれ、スコットの母親と私が同年で五年生の妹が居る事。高校での出来事。食生活の事等。なんだか子供が、一人増えたみたいでした。帰国当日、子供達は、登校日なので慌ただしく「さよなら」をして学校へ。帰宅後、「もう帰っちゃったんだね。もっといればいいのに」と、淋しそうでした。短時日でしたが、楽しい思い出ばかり、ホームステイをしてもらい本当によかったと思いました。

オクラホマ選手団員から横越村へお礼のメッセージ

☆選手達と共に来日しましたが、私たちは、横越の滞在や試合、レセプション等、とても楽しめました。北方文化博物館は大変印象的でした。関係者及びホームステイの皆様に感謝いたします。日本、特に横越での滞在はいつまでも良い思い出として残るでしょう。ありがとうございました。

団長　グレッグ・ヘニング

☆今までで一番楽しい滞在地だった。とても親切にしてくれたので、いつかお礼をしたい。

クリント・ヘンダーソン

☆横越の人たちは、オクラホマの人たちと大変よく似ている。いつかオクラホマ、そして私の家に来てください。

バッバ・マックロー